

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4093000059		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	二日市温泉長寿苑そよ風	(ユニット名	天拝)
所在地	福岡県筑紫野市武蔵1-1-24		
自己評価作成日	平成22年6月26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成22年7月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

共同生活を安心、かつ豊かに過ごせるよう、ファーストコンタクトから本人および家族との信頼関係を形成することに力をいれ、詳細な情報も引き出せるよう努めている。また、入居者の喜ぶ食事および生活を追求し、全職員でチームケアを行っている。他にも、季節を身近に感じることができる行事を取り入れ、畑で野菜を作ったり、バーベキューをしたりと思いつき出作りにも力をいれている。前回の外部評価を受け、医療面で毎週訪問診療を受けれる内科や歯科の体制を構築する。また、医療連携体制加算の体制を整備し、365日24時間の医療体制を整え、病気になった際の迅速な対応や病気になる前に処置を施すといった未病状態での治療に大きな力を注ぐことで入居者・家族により安心して生活を送れるような体制作りを強化する。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

6年前に、有料老人ホーム・デイサービス・ショートステイ・居宅介護支援事業を設立した法人が、より複合的なサービスを目指し、3年前に同敷地内にグループホームを設立した。大通りから少し入りこんだ山手で、静かな環境の中に立地している。前回の外部評価から管理者交代があつているが、サービスの質の向上に向けての管理者・職員共に前向きな努力が見られる。本年度の目標に「医・食・住・遊」を掲げ、より健康でより楽しく過ごしていけるサービス提供に努めている。また、全職員が月の目標を挙げ毎日のケアに取り組んでいる。個別ケアに重点を置き、図書館へ行く、買い物、外食など一人ひとりの希望に添ったサービス提供に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階玄関に事業所独自の理念を掲げ、いつでも職員の目に入るよう努めている。又、ミーティングの際、理念に沿ったご入居者個人のケアについて話し合っている。	「あせらず、ゆっくり、あなたの自立を支援します。地域とのふれあいを大切にします。」という、利用者にも職員にもやさしい理念を掲げている。職員は、あせらず、ゆっくりと利用者向き合い穏やかな時間を共に過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議における、区長・民生委員をはじめ関係者の意見を反映し、地域のイベントに参加したり、事業所の夏祭りなどのイベントへ招待を行っている。また、近隣の小中学のボランティアを定期的に受入れている。	資源ゴミを出し区費に使ってもらったり、2ヶ月に1度の地域の夜間パトロールに職員が参加したりと徐々に地域との繋がりが出来ており、何れは利用者と一緒に参加したいとも考えている。ホームの夏祭りには家族・地域住民の参加を得ているが、今年は地域の夏祭りにも参加する予定になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・イベントなど地域と事業所との相互協力、参加等を通じて認知症の方への支援方法を含むアプローチを模索しながら今後に向け努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年より2ヶ月に1度開催としている。家族・民生委員(老人会と兼務)・区長(公民館館長)・市役所・地域包括、同業者の管理者に参加頂き、そこで頂いた意見を反映しケアの向上につなげている。次々回時の防災対策の議題時には消防署員に参加頂く予定。	運営推進会議には、区長、民生委員、筑紫野市内の同業者管理者等が参加している。会議での提案をもとに地域とのつきあい、ターミナルケア、医療加算等の取り組みに繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へこまめに連絡を取っている。他にも運営体制の事で地域包括へ定期的に足を運び、利用状況やイベントなど報告・相談することで、より良い協力関係を築くよう図っている。	当ホームは、地域とのつきあいを大切にしていきたいと考えており、市町村に相談しアドバイスももらったり、地域住民との橋渡しをしてもらったりと密に連携を取り合っている。また、市町村に相談を持ちかけ同業者を紹介してもらい、それが機となって管理者・職員共に交流を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け月に一度、事例検討会を実施し、居室・玄関を施錠しないように努めている。入居者の様子・所在を確認し安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	言葉遣い・接遇については、月に1度の会議で職員間で意識統一を図っている。身体拘束をしないケアは施設全体の研修に参加し、また、回覧にて伝達を行っている。施錠することの弊害は理解しているが、外へ出る恐れのある利用者があるとの理由で玄関を現在施錠している。	職員の見守り方法を工夫し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチする等して、鍵をかけない自由な暮らしへの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け月に一度、事例検討会を実施し、管理者が介護業務に入り入居者の身体チェックを行うことで、虐待の防止ならび早期発見に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度についての研修を事業所内で実施している。また、玄関入口にパンフレットを設置などして職員だけでなく、ご家族ならびに見学者まで広く情報の提供を行っている。	施設全体のスキルアップ研修に職員が交替で参加し、参加できない職員については回覧にて伝達を行い全職員に周知出来ている。利用者や家族には、契約時に説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は家族が納得するまで管理者が時間を設け十分な説明を行う。又改定等に関しては同意書を作成し、十分な説明を行った上で、署名・捺印を頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設け、その対応の流れを玄関に掲示している。その他、事業所以外の窓口を重要事項説明書に記載、説明を行う。また、目安箱を新たに設け、より気軽に意見を取り入れるように努める。	管理者が、窓口となり利用者や家族からの意見・要望を聴いているが、他の職員にも気軽に話してもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。今までに苦情があった例は無い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する会議を月に一度設け、職員全員で検討し反映させている。また、管理者は随時個別で時間をとり、職員の意見を聞いている。	月に1度の会議で、管理者と職員とで意見交換をし出た意見はサービスの質の向上に反映させている。管理者も月に2回夜勤に入り、利用者の状態・職員の勤務体制の状況の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と年に一度、条件や職場環境に関し、個別で時間を設け話し合い改善に努めている。また不安や疑問に思うことがあればその都度代表者に意見できるようコミュニケーションを図っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して年齢・性別は問わない。現在20代から60代の職員が勤務している。また職員は得意とするものが十分発揮できるよう考慮し長期的に勤務していけるような環境作りを心がけている。	職員の採用に当たっては、年齢・性別・資格の有無によって対象から排除される事は無い。希望休の取得にも柔軟に対応している。得意分野で楽しく能力が発揮できるよう、業務分担の配慮がされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は今年1月に人権に関する外部研修を受講。今年8月に内部研修を予定し、入居者・職員に個人を尊厳するような態度、また思いやりのある丁寧な言葉使いを心がけている。	管理者・職員共に、研修に参加する機会を設けている。研修に参加した職員はレポートを提出し、他の職員への伝達研修につないでいる。施設全体の研修年間計画で8月に人権教育が盛り込まれており、また、月に1度のホームの会議でも折に触れて管理者が話し、啓発活動に取り組んでいる	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修期間を設けている。事業所内に、スキルアップ研修委員会を設け委員を中心としたスキルアップに関する研修を実施。介護技術から後見人制度といった幅広い視野で研修を行っている。また、レベルに応じて外部研修に参加し、レポートを提出していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所2ヶ所と相互に運営推進会議を出席し、管理者や職員の意見交換を行い、他事業所の良い点を取り入れて事情所の欠点の見直し、サービスの向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の安心を図るため、体験入居を行い、入院中や自宅療養中の方には、先方に伺い、本人と面会、身体的な面を含め傾聴、実調を行っている。本人になるべく納得した上での入居を目指し対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する時点での家族等の問題点を聞き、その解決方法を一緒に導くよう対応している。その中で事業所として協力できることはスタッフ一同が問題を把握し努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ファーストコンタクト時に本人ならび家族等の困難な点を聞き、問題解決する為に、事業所ならび職員ひとりひとりが傾聴の姿勢を心がけ信頼関係形成に努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者の中で畑仕事の手順や植え替え時期を教わったり、調理や食器拭きなど一緒に行ったりとできるかぎり、共に行うように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受信やイベント等、何かしらのコンタクトを家族と取り、入居者が疎外感を感じぬよう、又、家族が現状を把握できるよう密な連絡を行い絆をきらさぬよう努める。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型の強みを最大限活かしながら、その地域の催しや慣わしの際には、最大限参加することとしオープンに面会頂けるような環境作りを心かけている。	利用者本人や家族から、生い立ち・習慣・生活の糧となるものを聴き、馴染みの関係が途絶えないよう支援に努めている。週に2回、自宅に帰り近所づきあいをされる利用者も居られたり、ホームに友人が訪問されたりと馴染みの関係継続が出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する仲間として、入居者間でのささいなトラブルでも見過ごすことなく、その都度入居者の気持ちを傾聴し対応することを忘れずケアを行う。また、個性が引き立つようなレクを企画する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	予期せぬ病気が状態によってサービスが終了した方へのアプローチに関しては、事業所が得意な範囲の事は最大限に行い(見舞い、転居の際の相談等)入居者が当事業所を離れても安心できる生活が送れるよう支援する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活歴や趣味、要望等の情報を得ると共にコミュニケーションする際に情報を役立て話題にしながら傾聴することで、思いや意向の把握に努めている。また、発語の少ない方は、表情や仕草等から思いの汲取りを行っている。	職員は常に本人がどのように暮らしたいかについて考え、本人とゆっくり時間が取れる散歩の機会等に思いや希望を把握するよう努め、ケアの実践につなげている。困難な場合は、本人の立場に立って支援するようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々の生活歴やこれまでの介護サービス利用等の把握を実調(ファーストコンタクト)の際、可能な限り収集し、事業所での生活が始まってからの都度新しい情報を全職員が把握することに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度会議を設け、職員が個々に感じとった入居者の様子をデスクアッションし、更なる入居者の状況を把握に努め、現状に即した支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めているが、他職員の気づき等をとりまとめ、三ヶ月ごとの担当者会議を行っている。家族・本人も参加の上、職員または本人家族の意見を反映して介護計画の作成に取り組んでいる。	月1回の会議にて利用者の状況報告およびケアの検討を行い、3ヶ月毎に本人・家族を交えた担当者会議を開催し、医療等必要な関係者の意見を反映した介護計画を作成している。状態変化時は、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・介護実践と結果を細かく毎日、個人の介護記録に記録。特記事項を申し送りノートに反映させ、共有を図り、部署内の会議時に介護実践と計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの店での買い物の同行や、定期的病院受診、身体の重度化に伴う介助など、本人や家族に応じて柔軟な支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を家族や地域包括または市役所等より取り入れその時々でお祭りや自然観察等への参加に取り組み生活が豊かになるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の協力医療機関はあるが、今までのかかりつけ医の継続を優先している。家族による受診対応を基本とし、困難な場合は職員が同行し、受診結果を必ず報告している。	本人・家族が希望するかかりつけ医を選択できるよう支援している。週1回訪問看護による支援を導入し、利用者各々のかかりつけ医と連携を取り、異常の早期発見・病状の把握安定がはかれるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に3月まで看護職が在籍し、日常での変化を報告・相談し看護師より担当医へ連絡を取り必要な対応を行っている。また7月より訪問看護師との業務委託を行い、継続的に必要な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、管理者ならび職員が必ず立会うこととし、病院関係者との関係を築くことに努め、また早期退院できるよう円滑な情報提供をその都度行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・見取り対応に関する指針を作成し、契約締結時家族と話し合う、かかりつけ医や緊急搬送先など事情所でできることを十分に説明し同意頂いている。	指針が作成されており、重度化については可能な限りホームで対応することを家族に説明している。ただし、医学的管理の必要性が高い重度化・見取りについては、段階的に家族、医師を含めて話し合いを重ね、入院等の支援をすることを家族に説明し、全員で方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で起こったヒヤリハット、又事故の事例検討を行ったり、自己でシュミレーションしたりと行っている。また全職員が救急救命講習を受講しており、救急時の応援体制も整えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年2回実施し、昼夜を問わず避難できる方法を身につけている、他にも運営推進会議において緊急時における地域との協力体制の整えている。	ホームは施設2階にあり、外階段を利用したの避難となる。避難経路、避難場所、車椅子の方の避難方法等について、訓練時のみならず月1回の会議の中でも確認するようにしている。地域の協力体制作りも取り組まれている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内における月の一度の勉強会において、接遇マナーや人権教育を行い、自尊心を損ねることがないよう尊厳の気持ちを持つという対応の徹底を心がけている。	利用者への声かけや介護の場面では1人ひとりの人格を尊重した対応がされている。個人情報や記録等も鍵のかかる書棚に保管して漏洩防止や秘密保持を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で日頃から選択して頂ける環境を設け(食事の希望や外出レクの行き先など)本人の意思を伝えてもらえるよう努めている。また、なかなか想いや伝えることに困難な方へのアプローチ方法もその方に合った援助を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、入居者の思いも優先にしている。リビングで他入居者との会話を楽しめたり、自室で読書したりと、入居者一人ひとりのペースを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、朝昼夕食後、入居者に応じた対応(化粧、口腔ケアなどを含む身だしなみ)を行う。また必要に応じて理美容も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、職員企画による食事のイベントを企画実施したり、入居者の希望を聞いて献立の変更を行っている。また、入居者と共に食事の準備や食器の片付けを行っている。	畑で育てたトマトやキュウリ等が季節に応じて食卓に並び、職員と利用者が一緒に楽しく食事を摂っている。月1回の食事イベントでは目の前にぎられる寿司を堪能したり、家族参加のバーベキュー大会やそうめん流し等利用者の希望を聞き、食を楽しむ支援が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事の摂取量や水分量を一覧表を作成し、日々の量を把握している。また、出勤したリーダーは摂取量を確認し、他の職員へ指示を出し、臨機応変に行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新たに訪問歯科医と業務委託する、年二回検診を行うことで定期的に歯の状態確認および治療を行い、口腔状態の改善向上を図っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行うなどの援助をすることでオムツの使用回数の軽減を目指し、自立に向けたケアを行う。	利用者個々の排泄パターン、日常生活の様子、失禁の状態等を把握することで、リハビリパンツから布パンツに移行したり、パッドの使用量が軽減されるなど、自立に向けた個別支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認した上で利用者個別の排便状況、その際の身体状況を全職員で把握した上で対応しうるケアを行う。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉をひいてあり、利用者が希望すればいつでも入浴できるが、一日おきの入浴希望者が大半である。入浴を拒む場合は無理強いはないが、衛星面から2回に一度は入浴して頂いている。	温泉を利用できる恵まれた環境にある。一日おき午前中入浴を基本としているが、希望があればいつでも入れる体制になっている。利用者の好みを取り入れたバラ湯やゆず湯等、季節感を大事にして入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで愛用していた食器類や寝具などを持参して頂いており、個人の体調や気分によって自由に休憩できるような声かけ、空間作りに努め、心静かに寝れるよう不安なこと等傾聴の姿勢を保っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方がなされた場合、ドクターの意図や処方までの経緯、また薬の内容副作用を理解するまで説明を受けその情報を職員に伝達。服薬後の状態把握の徹底を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全職員が利用者のできること、できそうなことを把握しており、ご自身の居室清掃や菜園で野菜作り、季節を意識した飾り物作りなど個々に合った方法で生活をゆとりあるものにして頂く様努めている。また、四季折々の花見や果物狩り、工場見学等を月に1度、気分転換していただける企画として実行している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天気に応じて、毎日散歩に出かけている。また、月に一度ドライブやいちご狩り等を企画・実行しており、場所等を応じて家族に協力頂きながら支援している。	その日の体調や気分、天候に応じて、一日1回、隣の公園や武蔵寺への散歩等戸外に出かける支援をしている。月に一度ドライブ等の外出行事の他に、本人の希望を取り入れた買物や外食、図書館同行等個別支援も計画に位置づけ実践されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族の希望や能力またお金への価値観に応じて、職員で個々に対する支援方法を検討し、援助を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の気持ちを第一とし、電話や手紙のやり取りができるように、ご家族へ支援について十分に説明し、理解頂いたうえで援助している。また、同時にその時の状況等を含めた支援についてご家族へ連絡報告を行う。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集うリビングを囲むように共同空間を設置し、お互いの所在を確認することができ、安心感のある空間作りを心がけている。季節を意識し手作りの飾り物を飾り、台所から食材を刻む音などで生活感を演出している。	ホーム内外は掃除が行き届き清潔感があり、空調と程よい採光で心地よく過ごせる空間となっている。リビングには手作りの七夕飾りが置かれ、対面式のキッチンからは調理の音や匂いが食欲をそそり、生活感や季節感を採り入れて、五感が刺激される造りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファやテーブル席またはキッチン等を配置し自由に入出入りして頂き、会話を楽しんだりTV鑑賞されたり読書したりしていただけるよう配慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度家族と協議し、安心して居心地よく過ごせるよう入居者がいつも身に付けていた物や使っていた物、思い出の物等を持ち込んで頂いている。	使い慣れた家具や寝具、テレビ、家族写真、お気に入りの品々が持ち込まれ、1人ひとりの好みを活かして居心地良く過ごせるように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉も自力で開閉できるような形状・重さにし居室やトイレなどのプレートを見やすく表示している。また、トイレや居室の空間を広く使い勝手のよいようにしている。		